

協働推進に向けた提言

2012 年 4 月 23 日 神馬純江

今回、お話の機会をいただき、今までの活動を振り返り、より発展させるにはどうしたらよいか考えるきっかけとなりました。提言というにはおこがましいですが多くの方が市民活動に関心を持ち、実践していただけるための参考になれば幸いです。

何を市民活動というか

個人の趣味にとどまらない活動、でも始まりは「おもしろそう」「好き」からお金をもらってする仕事・もらわない仕事（ボランティア？）
ルールを守って生活すること自体（ゴミだしなどでも）がすでに市民活動では

協働とは

様々な解釈があるようだが、簡単に言えば、最近よく聞く「コラボ」。

協働事業を推進するために

・協働に適したとは

民の下地がある
住民が関心を持っている
官と民の間を埋める
普遍的なテーマ

（例）文化：小田原文化サポーター

環境保全・啓発：あおいほし、環境ボランティア協会

国際協力：KHM（ちえのわハウス）

・協働の役割分担の在り方

市民団体の力を最大限に引き出すには
官のかかわり方
官が先か民が先か（上下はないが）
事務局機能を民が担うのは大変
限りある時間を有効に使えるような役割分担

資金：コスト意識の長所短所、アンペイドワーク、補助・助成等の使い分け

広報宣伝・意志疎通：ネットが発達し、大変便利に

時間：役所は「予算」「年度」から逆算するので上手に流れができれば、休日・夜の使い方

生活を丸ごと考えるとうまくいくのではないか（ワークライフバランス→ライフワークバランスと言ってほしい）。官に勤める人も、生活の場面では民。両方の視点を持ってほしい。